別紙様式2（高）

令和2年度県立多賀高等学校 自己評価表

目指す学校像	（1）校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り，「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校
	（2）授業を中心に，生徒一人一人の可能性の開発に努め，進路希望の着実な実現をサポートする学校
	（3）特別活動を中心に，よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより，地域や保護者から信頼される学校

昨年度の成果〇と課題△	重点項目	重点目標	達成状況
〇 四大進学者のうち「一般」受検者率（28.4%） 〇 国公立大「一般」合格者（3，前年同値） △ 自学自習時間が著しく不足 △ 自学自習課題の積極的提供	（1）新大学入試に対応出来る進学実力の錬成	① 思考力・判断力・表現力を育む授業の深化を図るとともに，学習課題を積極的に提供し，家庭学習を定着させる。	B
		② 自己分析や大学・職業研究，課外や模試等をより体系的に実施し，希望進路の着実な実現を図る。	
〇 HRへの帰属意識が向上 △ SNS等利用モラルの一層の向上	（2）自治的能力と自律心の育成	③ HRや委員会における企画立案の取組等を積極的に設け，役割意識や責任感，能動的な規範意識を醸成する。	B
〇 1・2年年末部加入率各95%・94% 〇 22部中20部が県以上の出場・入選 △ 休養日の適切な設定，効率的活動	（3）切磋琢磨の奨励と心身のケア	④ 部活動を奨励し，特技を伸長するとともに，スポーツ・文化・芸術を楽しむ心ややり抜く力，連帯感等を育む。	B
		⑤ 保護者との密な連携やスクールカウンセラーの活用等により，生徒の心理的課題に早期に対応する。	
		⑥ 希望進路実現に備える学びの時間と課外活動の時間を適切に設計できるよう指導する。	
		⑦ 学校閉庁日の設定等により勤務時間の適正化に努めるとともに，行事，課外活動を含む業務の精選，適正化を検討する。	

※H29年度3学年は7学級→H30年度は6学級

※部活動は全20部のうち県大会等があるのは20部

＊評価基準：A（十分できている），B（達成できている），C（概ね達成できている），D（不十分である），E（できていない）